「未来のあなた」のために、今できること

子宮頸がんを知ろう

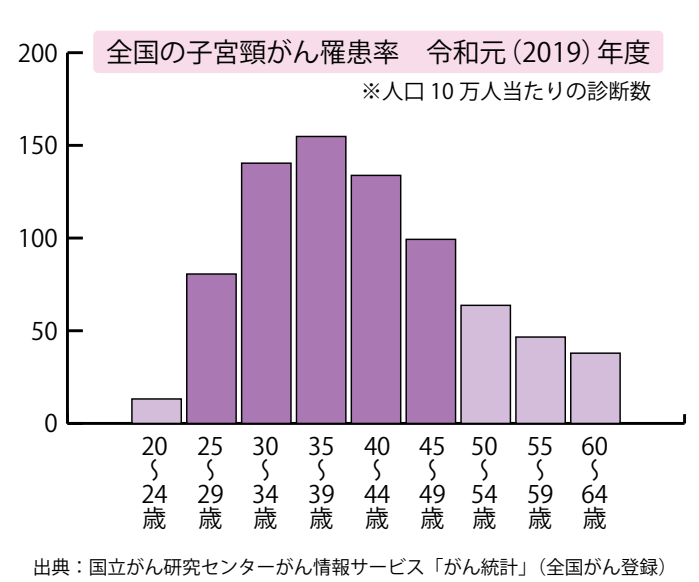
HPVワクチンに関すること
問子育て支援課　TEL20-4215　FAX20-4201

子宮頸がん検診に関すること
問健康推進課　TEL20-4211　FAX22-1077

若い年代の女性を中心に増えている「子宮頸がん」。初期は自覚症状がほとんどありませんが「事前の対策ができるがん」です。「未来のあなた」のために「今」、考えてみませんか？

子宮頸がんのこと

子宮頸がんは、子宮の入口にできるがんで、ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染が主な原因です。多くの人が一生に一度は感染するウイルスで、多くは性交渉により感染します。HPV に感染しても、ほとんどの場合は免疫により自然排出されますが、ごくまれに感染が続くと、数年かけて一部ががんになります。20 代後半から 40 代にかけて子宮頸がんにかかる方が増えています。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）

日本では毎年、約 1.1 万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約 2,900 人の女性が亡くなっています。30 歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1 年間に約 1,000 人います。

ワクチン接種と検診が鍵

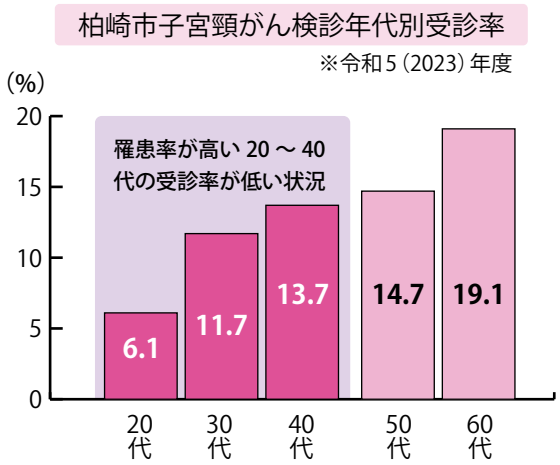
ワクチン接種（1 次予防）では、子宮頸がんの原因である HPV への感染を防ぐことができます。定期的な検診（2 次予防）では、がんになる前や、がんの初期段階で発見することができます。2 つを組み合わせ、子宮頸がんを予防することが大切です。

1 次予防
ワクチン接種

＋

2 次予防
がん検診

ワクチンを接種していても、していなくても、20 歳になったら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。



山田先生に聞く

HPV ワクチンと子宮頸がん検診

産科婦人科 山田医院
院長 **山田 潔** 医師

子宮頸がんで命を落としたり、子宮の摘出により出産できなくなったりすることを防ぐためには、2 つの対策が必要です。1 つ目は HPV ワクチン接種を行い、HPV への感染を防ぎ子宮頸がんにならないようにすること。2 つ目は子宮頸がん検診による病変の早期発見です。

接種による副反応が不安です

A 副反応については、約半数近くに痛みや発熱がありますが、ほとんどが軽いものです。鎮痛解熱剤で対応できます。我慢できない痛みや発熱、体調不良などがあれば、まずは接種を受けた医院や病院にご相談ください。相談した施設で対応できない場合は、専門医へ紹介します。

当初 HPV ワクチン接種後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする「多様な症状」の報道があり、いったんワクチン接種勧奨は中止されました。「自分にもこの症状が起きるのではないか」と約 4 割の方が感じているとのデータがあります。その後の研究により、このような多様な症状が「ワクチン接種と因果関係がある」とは証明されないとされています。どうしても不安な場合はワクチン接種を見合わせるとしても、子宮頸がん検診をお勧めします。

定期的な子宮頸がん検診が必要なのはなぜですか？

A HPV ワクチン接種を受けた場合でも、免疫が不十分な場合や、HPV ワクチンに含まれている HPV 型以外の型によって子宮頸がんになる可能性はあり得ます。このため定期的に子宮頸がん検診を受けることが必要です。子宮頸がん初期や子宮頸部異形成（前がん状態）では、自覚症状がない場合がほとんどです。前回の検診で「異常なし」であっても、2 年に 1 回の検診を続けることをお勧めします。今後、HPV 検査単独法※が導入されると、陰性（HPV 感染なし）の場合の検診間隔は、現在より長くなる（2 年→5 年）とされています。

なお、不正出血などの自覚症状があれば、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。

※HPV 検査は、HPV の感染の有無を調べる検査です。新潟県内で導入方法などを検討中のため、市の子宮頸がん検診で HPV 検査を導入する時期は未定です。

検診の結果が「要精密検査」でした。自覚症状がなくても精密検査を受けないといけませんか？

A 子宮頸がん検診の目的は、異常の早期発見です。精密検査が必要となったら、放置せずに必ず専門医療機関を受診してください。子宮頸がんの初期であれば、子宮温存が可能です。HPV ワクチン接種と子宮頸がん検診は子宮頸がんから身を守る対策です。積極的な対応を検討してください。

「未来のあなた」のために、今できること

1 子宮頸がん予防の HPV ワクチン

HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因となる HPV への感染を防ぐ予防接種です。接種の時期やワクチンの種類によって、2 回もしくは 3 回の接種が必要です。対象の方は、無料（公費）で受けることができます。

ワクチン接種のメリット

HPV の感染を防ぐ

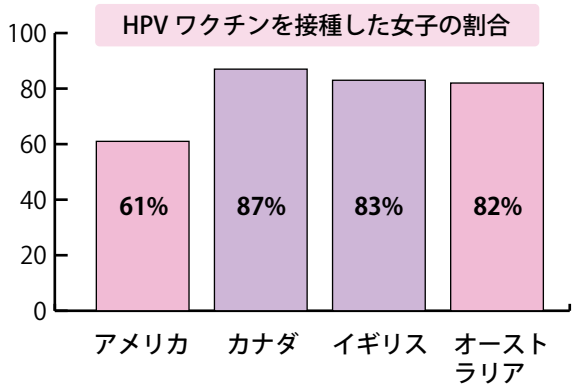
HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を防ぐことで、子宮頸がんを予防できると考えられています。

原因の 50 ～ 90%を防ぐ

ワクチンの種類によって異なりますが、子宮頸がんの原因の 50 ～ 90%を防ぎます。

海外の接種率

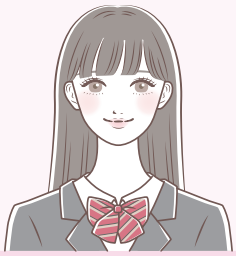
120 カ国以上で、HPV ワクチンの公的な予防接種が行われています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどの接種率は 8 割以上です（2022 年 12 月末）。



出典：厚生労働省 HPV ワクチンに関する Q&A

誰が接種できるの？

定期接種対象者



平成 20（2008）年 4 月 2 日～平成 24（2012）年 4 月 1 日生まれの女子

接種期間は、**16 歳になる年度の末日まで**
（標準的な接種時期は、中学 1 年生）

1 回目を 15 歳の誕生日前までに接種すると、**2 回の接種** で済むワクチンがあります。

キャッチアップ接種対象者

平成 9（1997）年 4 月 2 日～平成 20（2008）年 4 月 1 日生まれの女性で、過去に HPV ワクチンの合計 3 回の接種を完了していない方

キャッチアップ接種は、**2025 年 3 月まで**

接種完了までに **約6カ月** かかります。
希望する方は早めの接種を検討してください。

接種方法

接種を希望する方は、医療機関へ予約をしてください。接種ができる市内の医療機関は、市ホームページでご確認ください。

柏崎市以外（新潟県内）で接種を希望する方は、その医療機関へ直接お問い合わせください。県外で接種する場合は手続きが必要です。子育て支援課（TEL20-4215）にお問い合わせください。

定期接種

キャッチアップ

「未来のあなた」のために、今できること

2 子宮頸がん検診

検診を受けるメリット

早期発見・早期治療

子宮頸がんは、ゆっくりと進行することが多いため、定期的に検診を受けると、がんになる前の「異形成」という段階で見つけることができます。

早期であれば治る可能性が非常に高く、子宮を温存する（出産できる可能性を残す）治療法を選択することができます。

がん以外の病気を発見

子宮頸がん検診では細胞診、内診（視診）を行います。子宮頸がん以外の病気も発見され、治療につなげることができます。

子宮の入り口部分の細胞をやわらかいヘラやブラシで軽くこすって採取します。検査自体は、1～2分程度で終わります。

定期的な受診が大切

子宮頸がんは、初期段階では自覚症状がほとんどありません。自覚症状が出にくいからこそ、定期的な検診で確認することが重要です。20 歳を過ぎたら、2年に1回検診を受けましょう。

受診方法

詳細はこちら

電話で健康推進課（TEL20-4211）へ申し込んでください。受診通知書が届いたら、次のいずれかで受診してください。

施設検診（要予約）

産科婦人科山田医院または健康管理センターで行います。

予約電話番号		
	産科婦人科山田医院	TEL23-6070
	健康管理センター	TEL20-4211（健康推進課）

集団検診（予約不要）

検診バスの中で行います。健診・検診日程表などで実施日を確認し、会場へお越しください。

「未来のあなた」のために、「今」考えてみませんか？

21 歳無料クーポン

▶内容…通常 2,600 円の施設検診を無料で受けられます。対象の方には 7 月中に案内が届きます。集団検診に変更することもできます。

▶対象…21 歳の女性※

NEW ワンコインクーポン

▶内容…通常 1,400 円の集団検診を 500 円で受けられます。対象の方には 7 月中に案内が届きます。

▶対象…25 歳、31 歳、35 歳、39 歳の女性※

※令和 7（2025）年 4 月 1 日時点での年齢

NEW 土曜日検診 要予約

▶内容…仕事や育児で月～金曜に検診を受けられない方は、土曜日に集団検診を受診できます。

▶検診日

●子宮頸がん＝9 月 28 日㈯、11 月 2 日㈯

●子宮頸がん・乳がん＝12 月 7 日㈯

▶受付時間

●午前＝9:30 ～ 11:00

●午後＝13:00 ～ 14:30

▶ところ…健康管理センター

▶予約開始日…8 月 8 日㈭

▶予約方法…祝日を除く月～金曜の 8:30 ～ 17:15 に電話で健康推進課（TEL20-4211）へ。